

(トップページ：<http://mylibrary.maedal.jp/> )

(GDP (IMF WEO)：<http://mylibrary.maedal.jp/GDP.html> )

マイライブラリー：0607

(注)本稿は2024年7月22日及び23日の2回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2024.7.25

前田 高行

## IMF 世界経済見通し(2024年7月版)：低成長続く EU、中国の成長率は5%

IMF(国際通貨基金)が「世界経済見通し(World Economic Outlook Update、July 2024)」(以下、WEO)を発表した。このレポートでは全世界、EU、ASEANなどの主要経済圏及び日米中印など主な国々の2022年(実績)から2025年(予測)まで4年間のGDP成長率が示されている。

本稿では今年(2024年)及び来年(2025年)の成長率を比較し、また前回4月の経済見通しに対してGDP成長率がどのように修正されたかを検証する。そして全世界及び主要経済圏並びに7カ国(日、米、中、印、独、露、サウジアラビア)の2023年から2025年の3年間の成長率の推移を比較する。

\*WEO レポート:

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2024/07/16/world-economic-outlook-update-july-2024>

(今年の世界の成長率は3.2%、前回4月見通しと変わらず!)

### 1. 2024年のGDP成長率(末尾表1-B-2-08参照)

今回7月見通しでは今年の世界の成長率は3.2%とされており、前回4月と変わっていない。IMFは世界経済が足踏み状態にあると分析している。

経済圏別に見るとEU圏の2024年の成長率は1.2%であり、4月の数値を0.1%アップしている。またASEAN5カ国は4.5%で前回4月と変化はない。これに対して中東・中央アジア諸国は石油生産と地域紛争が引き続き見通しの重しとなるため2.8%から2.4%に引き下げられている。

国別では今年(2024年)の成長率は米国2.6%、日本0.7%、ドイツ0.2%、英国0.7%、ロシア3.2%、中国5.0%、インド7.0%である。日本とヨーロッパ先進国の成長率はいずれも1%以下であり、経済の回復は緩慢である。このような中で米国の成長率は2.6%と日欧に比べかなり高い。但し前回(4月)見通しと比べると米国は2.7%→2.6%、日本は0.9%→0.7%と下方修正されているのに対して、欧州各国は上方修正または現状維持されており、日本に対する評価が厳しい。

これら先進国に比べ BRICS 諸国の成長率は高い水準にある。特にインド(7.0%)は世界で最も高く、世界平均(3.2%)の2倍以上である。中国(5.0%)も世界平均を上回っており、また前回4月の4.6%を上方修正しており、インドと中国が世界の成長をけん引している。ウクライナ戦争下で欧米の経済制裁を受けて厳しい状況にあるロシアではあるが、成長率は世界平均と同じ3.2%である。日欧向けの石油・天然ガスの輸出はほぼストップしているが、それに代わりインド、中国向けが増加しており、経済的な影響は少ないとみられる。

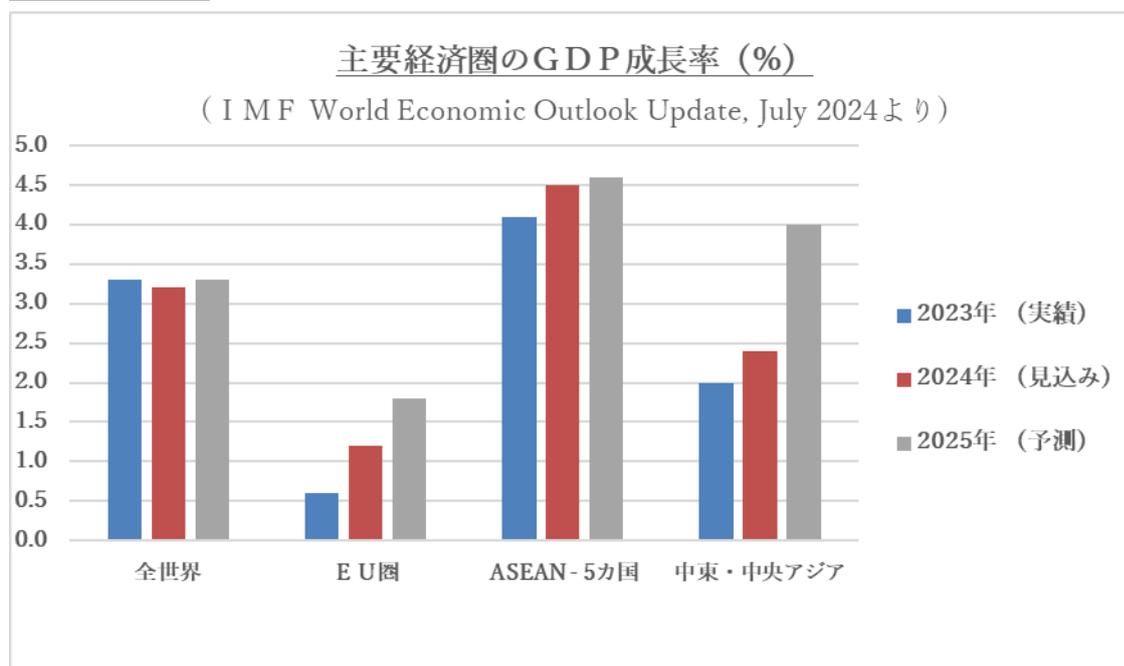
産油国のサウジアラビアは1.7%であり、前回4月見通しの2.6%が大幅に下方修正されている。OPEC プラスの協調減産は年内一杯続くと予測され、世界経済の回復も足踏み状態であることから、石油輸出に頼る同国経済も厳しい状況が続いている。

## 2. 2023年～2025年のGDP成長率(末尾表1-B-2-11参照)

主要な経済圏と国家の昨年(実績見込み)、今年(予測)及び来年(予測)のGDP成長率を見ると以下の通りである。

(回復軌道のEU圏、成長維持するASEAN、加速する中東・中央アジア！)

### 2-1 主要経済圏



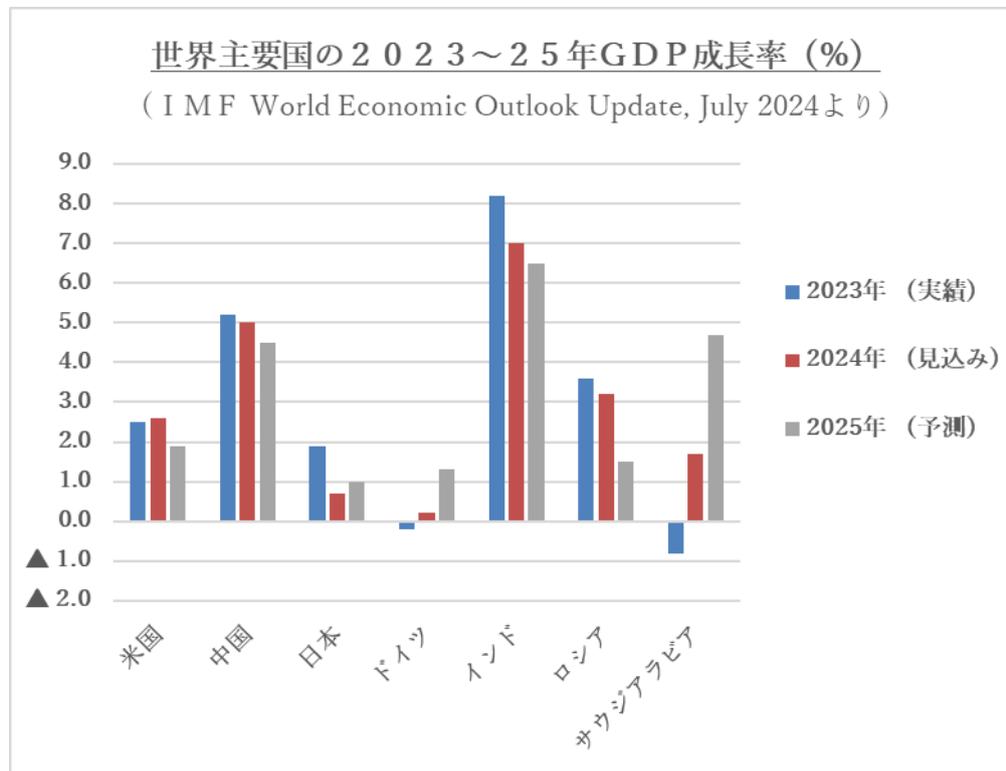
全世界の3年間の成長率は3.3%(2022年)→3.2%(2023年)→3.3%(2024年)であり安定的に推移すると見込まれている。EU圏の3年間の成長率は0.6%→1.2%→1.8%とされ、低迷状態であったEUは回復する見通しである。

ASEAN5カ国の成長率は4.1%→4.5%→4.6%であり、世界平均を上回る高い成長率を維持すると考えられる。ASEANはインド及び中国の成長を下支えする世界の成長センターとして引き続き機能していくものと見られる。

産油・ガス国が多い中東及び中央アジアの成長率はエネルギー価格と需要に大きく影響される。3年間の成長率が2.0%→2.4%→4.0%と上昇傾向にあることは、来年にかけて世界貿易が改善しエネルギー需要が回復するであろうことを示している。

(中国を上回る高い成長率を続けるインド！)

## 2-2 主要国



米国の昨年の成長率は2.5%であったが、今年は2.6%、来年は1.9%である。昨年从今年からは成長を維持し、来年は一服するようである。日本の成長率は1.9%→0.7%→1.0%と成長回復の足掛かりが見えない。今年は第1四半期に主要な自動車工場が操業停止したためマイナス成長になったことが響いている。日本と同様先進工業国であるドイツの成長率は▲0.2%→0.2%→1.3%であり、同国は昨年までエネルギー輸入価格の高騰と輸出の伸び悩みに足を引っ張られていたが、マイナス成長を脱して景気回復の軌道に復帰しつつある。

中国の3か年成長率は5.2%→5.0%→4.5%とされている。かつての年10%を超える成長率は無理としても世界平均を上回っており、世界経済をけん引する力を見せている。この中国を上回る成長を見込まれるのがインドである。同国の成長率は8.2%(昨年)→7.0%(今年)→6.5%(来年)と世界平均を大きく上回る7%前後の高い成長を維持する見込みである。IMFは2023年の成長率の上方改定に伴うキャリーオーバー効果と、農村地域を中心に個人消費の見通しが改善したためであるとしている。

中国、インドなどと共に新興経済国 BRICS の一翼を担ってきたロシアの成長率は、昨年の3.6%から今年は3.2%に、さらに来年には1.5%になるとして3年間連続で成長率は低下するものと予測している。これに対して同じ産油国サウジアラビアは対照的な様相を呈しており、

3カ年の成長率は▲0.8%→1.7%→4.7%と年々改善されるものと見込んでいる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)

**MENAと世界主要国のGDP実質成長率(2024-25年)**

国名	2024年7月見通し(今回)			2024年4月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2024年 成長率 (%)	2025年 成長率 (%)	増減	2024年 成長率 (%)	2025年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	2025年 成長率 (%)
全世界	3.2	3.3	0.1	3.2	3.2	0.0	0.1
米国	2.6	1.9	▲ 0.7	2.7	1.9	▲ 0.1	0.0
日本	0.7	1.0	0.3	0.9	1.0	▲ 0.2	0.0
ドイツ	0.2	1.3	1.2	0.2	1.3	0.0	0.0
英国	0.7	1.5	0.8	0.5	1.5	0.2	▲ 0.0
中国	5.0	4.5	▲ 0.5	4.6	4.1	0.4	0.4
インド	7.0	6.5	▲ 0.5	6.8	6.5	0.2	0.0
ASEAN-5ヶ国	4.5	4.6	0.1	4.5	4.6	0.0	0.0
ロシア	3.2	1.5	▲ 1.7	3.2	1.8	0.0	▲ 0.3
中東・中央アジア諸国	2.4	4.0	1.6	2.8	4.2	▲ 0.4	▲ 0.2
サウジアラビア	1.7	4.7	3.0	2.6	6.0	▲ 0.9	▲ 1.3

Source: IMF World Economic Outlook Database Apr 2024 &amp; July 2024(update)

**GDP 対前年伸び率(%、2024年7月値)**

	2023 年 (実績)	2024 年 (見込み)	2025 年 (予測)	2024/2023 年	2025/2024 年
全世界	3.3	3.2	3.3	▲ 0.1	0.1
米国	2.5	2.6	1.9	0.1	▲ 0.7
E U圏	0.6	1.2	1.8	0.6	0.6
ドイツ	▲ 0.2	0.2	1.3	0.4	1.1
日本	1.9	0.7	1.0	▲ 1.2	0.3
英国	0.1	0.7	1.5	0.6	0.8
中国	5.2	5.0	4.5	▲ 0.2	▲ 0.5
インド	8.2	7.0	6.5	▲ 1.2	▲ 0.5
ASEAN-5 ケ国	4.1	4.5	4.6	0.4	0.1
ロシア	3.6	3.2	1.5	▲ 0.4	▲ 1.7
中東・中央アジア諸国	2.0	2.4	4.0	0.4	1.6
サウジアラビア	▲ 0.8	1.7	4.7	2.5	3.0

Source:IMF World Economic Outlook Update July 2024